津和野堀家蔵　読本・実録類について

鈴木　亨

江戸時代初期から地元笹ケ谷鉱山を始め多数の鉱山を経営し、かつて「中国の銅山王」と言われた津和野町畑迫の堀家の邸宅が、津和野から山口県阿東町へ抜ける県道添いにある。近時特にその幽邃な庭園が有名となって、観光名所の一つとして訪ねる旅客も多くなった。その県道を隔てて丁度向い側に同家の古い土蔵があり、その一角に大きな長持が一つ、恐らく数十年以上は開けられた形迹もなく納まっていた。

その中から江戸時代後期の版本・写本が、一見して千数百冊発見された。この情報を得て、私と下房俊一教授が津和野に趣き、調査を開始したのが昭和六十三年三月、何分多数の資料の事とて、この遠隔地での調査何時果てることかと途方に暮れていたところ、御当主堀幸清氏の思いがけない御好意で、この全資料を大学にお借りして、ゆっくり調査出来ることになった。私共は同年六月再訪して、これを三十個の段ボール箱に収め、宅配便で研究室に送った。

只でさえ手狭な研究室や資料室、荷ほどきをして山のように積み上げたものの、そのままでは他の研究の妨げになるから、何とか然るべき所に分散収納しなければ、何事にも取りかかる事が出来ぬ。ところがそれだけの事が簡単ではなかった。というのは、長年長持の中に密閉されていたため、山陰の山間地という悪条件も重なって、資料の受けた湿害はかなり酷く、黴が白く黒く又青くはびこり、よく払わなければ題箋も読めない状態のものが多かった。重なった書物の各丁も多く密着し、酷いものは一枚板のようになっている。一冊ずつ剝がすのにも注意しなければ、題箋はもとより表紙までが剝がれかねず、仮りに置いた机の面もじっとりと湿り、何よりその部屋一杯に籠った黴の匂いが来る人を辟易させた。まず乾燥させる事が第一と、窓際に少しずつひろげたが、これがまた場所を取るし、仕事は遅々として進まなかった。紙魚は時折見かける程度で、虫喰いは幸い殆どなく、計らずもその面では保存容器としての長持の優秀性を証明していた。もし虫害が酷かったら、他の架蔵資料への影響も顧慮しなければならないから、事態は遙かに深刻だったと思う。

それでも一夏過ぎた頃には殆ど山積みは解消し、いよいよ本格的な調査にかかれる状態になった。ところが今度は別の問題に逢着し

た。蔵の長持から堀邸事務所へ、更に段ボール箱に分載して輸送、荷ほどきして山積み、分散して乾燥、その他移動を繰り返しているうちに、冊数の多い揃い物がばらばらになってしまい。その捜索が一仕事となったのである。後述するように、単冊の資料は少数で、何年にもわたって刊行された大部の作品も多く、しかも始めから欠けている資料もかなりあって、捜索は無駄に終る事も度々、又本当に無駄だったかの確認も意外に手間のかかる仕事であった。

かくして堀家の御好意で資料を手許に置いてから二年余になるが、まだ調査は完了していない。興味深い資料に出合って、それのみに暫くのめり込むという気侭な事もしばしばなので、この遅れは全く私個人の責任である。しかし漸くほぼ全容についての見通しが出来る段階に達したので、整理のついた物から報告しようと思う。

この堀家蔵の資料の主力は、読本と称する江戸時代後期の小説類、及び実録類である。江戸時代、ごく少数の例外を除いて、武家方の事件を実名で記述したものを出版することは許されていなかった。しかしそういうものに対する読者の需要は勿論大きく、それに応えたのが写本で伝わった実録である。実録もとより事実の記録とは限らず、小説的虚構を多く混え、講釈との関わりが深まると、大部分虚構、又は全く事実無根の事柄を実録体で仕組むものも現れ、出版される小説、読本と質的には余り変らないものまで出て来る。お家騒動、敵討、裁判物、犯罪物、騒擾物、侠客物などが、実録の主要な題材であるが、同時にこれらは読本、歌舞伎、講釈でも熱烈に好まれたものである。

堀家の資料にはこの外、戦記、雑史、伝記等やはり実録に類するものが多く、その他随筆、浮世草子、洒落本、滑稽本、草雙紙類も混在する。しかし読本・実録類を中心とした硬派の読み物が主流であるのは歴然としていて、収集者の意向を窺わせるに足る。ただこの収集者や、収集の時期等については、御当主堀幸清氏も何も御存じない由、以下の事から若干の推察を試みるしかない。

これらの資料の多くに貸本屋の蔵書であった事を証明する印判や書き込みを見つける事が出来る。最も多いのは津和野本町、嘉年屋与兵衛のもので、「新古書物売買」「経書歌書其外本類別下直ニ仕候間直段御読之上御注文被仰付可被下候以上」などの文句を彫り込んだ56ミリ×43ミリの墨印を捺したりしているから、貸本業ばかりでなく、新古の書籍の売買も行なっていたことがわかる。嘉年屋は「金屋」「か年屋」「かね屋」等と書いた例もあるから、「カネヤ」と読むのであろう。「万延元年　嘉年屋」と墨書している例があるので、営業年代も大体の推定が出来る。嘉年屋には他に清兵衛、清吾の名を記したものがある。その年代の前後を、それを記した書物の刊年から推定するわけにも行かないので、これは不明というほかない。

津和野には玉屋という貸本屋もあったらしい。「本町西江入今市一丁目　玉屋貸本所」などの書き込みが見える。その他長州萩瓦町の「伊丹七」、大阪の「戎屋」、その他所在不明の「下孫」「佐清」「石儀」「近半」「泉源」「綿庄」「北宗七」など、いずれも貸本屋の印判と思われる。これらの印が重なっているもののうち、たとえば大阪中筋町の「戎屋正兵衛」の角印を墨で×印で消した上、嘉年屋が新たに印を押しているのは、明らかに貸本屋間で書物の移動があっ

た証とすることが出来る。「今市町玉屋仕入、津城本町嘉年屋仕入」と書き込んだものもあって、つい近隣での移動もあったようである。そして最終的にはこの嘉年屋に集まっていた貸本群が、何らかの事情で相当量一括して堀家の有に帰したと考えられる。

それがこの蔵書の重要部分であると考えられるが、勿論それ以外に堀家で個別に購入したらしい物もある。「堀氏蔵書」という18ミリ角の朱印を押したものは、比較的美本が多く、貸本の読み汚された感じが少ない。実際貸本は実によく読まれており、頁をめくる際に指の当る下端部は手垢で黒くなり、摩滅して文字が判読出来ないものが少なくない。原題箋の残るは特に初巻では稀で、表紙すら取り替えられ、綴じ直して錯簡を生じた例さえある。当代の人々は現在の人々がテレビを見るが如くに貸本に興じたと思われるのである。

長編のものでは、初巻に近い程汚れや破損が多く見られ、欠巻が生じているものも少なくない。読者が読み始めて途中で興味を失って放棄するためか、又は借覧期間の関係で、最後まで読み切れないかするためであろう。借覧期間については、嘉年屋が「新はんにて三日あいだ(マヽ)にごらん下されたし」と裏の見返しに墨書している例があって、注文が多い物については催促も厳しかったのであろう。「早く返し候へ」と書き込んだのもある。

こういう貸本屋から読者への注文ばかりではない。読者の落書も随分多い。たとえばその本についての感想、『小栗外伝』について、「小栗判官勇ト虫モ仏ヲ信スルノ愚笑フベシ呵々」、『絵本小町譚』について、「小野小町ノ愚ナル哉人世第一ノ色情ヲ知ラズ可笑々々」など、この両者は同一人の仕業かも知れない。『旬殿実々記』巻五が分冊されて、その下の巻にうっかり「六之巻」の題箋をつけて貸し出したのを、すかさず「貸本舎ニ真心得／此本巻を六之巻いへとも此巻大にいつはり也。元来五之まきなり。両に分けて六の巻いふは貸主心得違て、己来に真の六のまきを整(マヽ)めていつわりをことはり給ふべし」と、でかでかと抗議文を書きつけている。本屋も負けていない。「証／全体本書ニ落書き亜(マヽ)口等致候モノ有之候様ニモ相見得以来者絶テ御断申上候也」。これは玉屋のものであるが、嘉年屋でも「落書又貸御用捨可下(マヽ)候」などと書き込んだりしている。「此の本をかすにおしくわなけねどももどさぬ人のつらさよ」とも。「なけねども」は当地に今もある方言、ここまで来れば本屋自身による落書とも言えるから世話はない。落書には時にかなり卑猥な絵もあり、返却遅延や紛失などと共に貸本屋の悩みの種であったろう事が偲ばれる。

本蔵書は、例の長持に納められる以前に二回は大整理がなされた形迹がある。大部分の書籍に二種類の付票がついており、たとえば『垣根草』には「七四三」と墨書した票と「改第弐百拾八号」と朱書した票とが、初冊の表紙に貼布されている。後者の方が紙も新しく、多くの前者に一部重ねて貼ってあるので、後のものである事が明らかである。度々の移動で剝落したり、初めから付いていないものもあって完全な復元は難しいが、番号からは特に分類基準も見えて来ないので、貸本屋か、堀家かで台帳を作成し、それと照合するための番号であったかと思われる。又番号の規模から見て、本蔵書以外のものを含めた、かなり大規模な蔵書の整理に関わるものであったことが窺われる。

その他、指摘すべき事項も二三あるが、今はこれに止めて、書目の紹介に移りたい。先述の如く蔵書の主要部分をなす読本から、それもまず欠巻のない全冊揃いのものから挙げて行く。順序は刊行年代順とし、無刊記本については序・跋の年月日、それも不明の場合は国書総目録によることとし、その旨を明記する。書名、その読み、内題、書物のサイズ（大本、半紙本等と略記）、巻冊数、作者名、画作者名、刊年、出版書肆（所在地は町名まで記するものが多いが、都市名まで録す。皇都・浪華・東都などは、それぞれ京都・大阪・江戸とする）の順で掲げる。書肆名は多数連ねられている場合があって煩雑であるが、国書総目録や文学事典の類でも記載のない事が多い項目なので、そのすべてを記録した。特に、必要のない項は省き、特記を要する場合はそれを付記する。

堀家蔵読本目録（一）

1　席上奇観垣根草（せきじょうきかん　かきねぐさ）

内題　同。半紙本。五巻五冊。草官散人（菅翁）作。明和七年刊。

書肆　（京都）　銭屋七郎兵衛　近江屋庄右衛門　銭屋庄兵衛　菊屋七郎兵衛　梅村三郎兵衛（梅花堂）

▽出版書肆は列挙されている場合、通常最後に記されている書肆がそれ（この場合は梅花堂）とされているが、例外もある由なので、刊記に記録される順に列挙しておく。以下同じ。

2　本朝水滸傳（ほんちょうすいこでん）　前編

内題　同。（見返し　朝本水滸傳）　半紙本。十巻九冊（巻八・九合綴）。建部綾足。安永二年刊（刊記には「明和十癸巳年正月」とあり）。

書肆　（江戸）　山崎金兵衛。（大阪）　荒木佐兵衛。（京都）井上忠兵衛　梅村市兵衛　神先宗八　明田与兵衛　鹿野安兵衛　能勢儀兵衛　梅村宗五郎　井上源与門。

▽前編のみ刊行。後編十五巻十五冊は写本にて伝わる。未完。

3　拍掌奇談凩草紙（はくしょうきだん　こがらしぞうし）

内題　拍掌奇談凩草紙。半紙本。五巻五冊。森羅万象（森島中良）

寛政三年自序。寛政四年刊（総目録）

書肆　（江戸）　上総屋利兵衛。

4　川童一代噺（かわたろういちだいばなし）

内題　同（振仮名付）。巻二〜五題箋「かとふ一代噺」　半紙本。五巻五冊。後穿窟主人作。無刊記。跋末に「寛政六つましき春」寛政六年刊（総目録による）

5　金毘羅御利生記（こんぴらごりしょうき）

内題　讃州象頭山金毘羅御利生記。半紙本。五巻五冊。今村美景作。寛政十二年刊。

書肆　（江戸）　鶴屋喜右衛門。（京都）　菊屋安兵衛。（大阪）　藤屋九兵衛　八文字屋八左衛門。

6　絵本小町譚　（えほんこまちものがたり）
内題　小野小町一代記。半紙本。六冊。堀田連山画。享和二年刊。
書肆　（大阪）　小林六兵衛。（京都）　大谷仁兵衛　三木安兵衛　西村吉兵衛。

7　絵本彦山権現霊験記　（えほんひこさんごんげんれいげんき）
内題　同。半紙本。十巻十冊。速水春暁斎作画。享和三年刊。
書肆　（大阪）　伊勢屋喜兵衛　津国屋清五郎　和泉屋卯兵衛。
（京都）　長村太助　梅村伊兵衛　大津屋源兵衛　徳屋五兵衛　本屋八郎兵衛　河南喜兵衛　丸屋源八郎　著屋儀兵衛。

8　絵本箱根山霊応傳　（えほんはこねやまれいおうでん）
内題　同。半紙本。六巻六冊。速水春暁斎作。享和三年刊。
書肆　（大阪）　河内屋茂兵衛。

9　絵本亀山話　（えほんかめやまばなし）
内題　復讐亀山新話。半紙本。十巻十冊。速水春暁斎作・画。享和三年刊。
書肆　（大阪）　津国屋清五郎　伊勢屋喜兵衛　泉屋源七。
（京都）　大津屋源兵衛　升屋勘兵衛　本屋太助　鈔屋安兵衛

10　絵本漢楚軍談　（えほんかんそぐんだん）
内題　同。半紙本。五巻五冊。曲亭馬琴撰。北尾重政画。享和四年刊。
書肆　（江戸）　鶴屋喜右衛門。

11　国姓爺忠義傳　前篇　（こくせいやちゅうぎでん）
内題　絵本国姓爺忠義傳。半紙本。十三巻十三冊。法橋玉山作画。文化元年刊。
書肆　（江戸）　松本平助。（大阪）　勝尾屋六兵衛　柏原屋清右衛門　柏原屋与左衛門　柏原屋嘉助　柏原屋源兵衛。

12　絵本義勇傳　（えほんぎゆうでん）
内題　同。半紙本。十巻六冊。速水春暁斎作・画。文化二年刊。
書肆　（大阪）　伊勢屋喜兵衛　西村吉兵衛　鈔屋安兵衛。
（京都）　松前屋利助　八幡屋金七　吉野屋仁兵衛。

13　縮像復讐石言遺響　（えいりかたきうち　せきげんいきょう）
内題　石言遺響。半紙本。五巻五冊。曲亭馬琴作。蹄斎北馬画　文化二年刊。
書肆　（江戸）　西村源六　平林堂　昌雅堂

14　浅草霊験記　（あさくされいげんき）
内題　絵本浅草霊験記。半紙本。十巻十冊。速水春暁斎作・画。文化三年刊。
書肆　（大阪）　伊勢屋喜兵衛　塩屋長兵衛　小刀屋六兵衛　池田屋勝助　河内屋八三郎。（京都）　浅井庄右衛門　八幡屋金七　西村屋吉兵衛　近江屋仙助　勝田善助。

15　春宵奇譚絵本璧落穂　前編
（しゅんしょうきだん　えほんたまのおちほ）
内題　同（振仮名付）。半紙本。五巻五冊。歌麿陳人小枝繁作。葛飾北斎画。文化三年刊。
書肆　（京都）　植村藤右衛門。（大阪）　小林六兵衛　大野木市兵衛。（江戸）　森甚助。

16　敵討誰也行燈　（かたきうちたそやあんどん）
内題　同（振仮名付）　半紙本。四巻四冊。曲亭馬琴作。歌川豊国画。無刊記。文化三年孟春自序。文化三年刊（総目録による）

17　春夏秋冬　春篇　（しゅんかしゅうとう）
内題　同。半紙本。五巻五冊。振鷺亭主人作。歌川豊国画。文化三年刊。
書肆　（京都）　植村藤右衛門。（江戸）　西宮弥兵衛。（大阪）　勝尾屋六兵衛。（江戸）　石渡利助。

18　小説東都紫　（しょうせつえどむらさき）
題箋（巻二）小説枝登無浪左来。内題　小説東都紫（振仮名付）
序題　小説恵登務羅左起。半紙本。六巻六冊。中川昌房作。無刊記。文化四年刊（総目録による）。

19　朝夷巡嶋記　初輯　（あさいなじゅんとうき）
内題　同。半紙本。五巻五冊。曲亭馬琴作。歌川豊広画。文化四年刊。
書肆　（京都）　吉野屋仁兵衛　（大阪）　鉱屋安兵衛　河内屋儀助　今津屋辰三郎。

20　喫茶物語　（きっさものがたり）
内題　絵本喫茶濫觴記。半紙本。三巻三冊。鳳樹斎作・画。文化四年刊。
書肆　（江戸）　角丸屋甚助。（名古屋）　松屋善兵衛。

21　獨揺新語　（どくようしんご）
内題　復讐古実獨揺新語。半紙本。五冊。熟睡亭主人作。栄松斎長喜画。文化四年刊。
書肆　（大阪）　河内屋太助。（江戸）　若林清兵衛　丁字屋平兵衛。

22　梅花氷裂　（ばいかひょうれつ）
内題　梅之与四兵衛物語梅花氷裂。半紙本。三冊。山東京伝作。文化四年刊。
書肆　（江戸）　鶴屋喜右衛門　鶴屋金助。

23　佐野の雪　（さののゆき）
内題　赤縄小説佐野ゝ雪。半紙本。五巻五冊。成三楼主人作。雪斎源琇画。文化五年刊。
書肆　（大阪）　西川源助　小林六兵衛。（江戸）　若林重右衛

門　玉栄堂　鳳嶽堂。

24　和漢嘉話宿直譚　（わかんかわとのいがたり）
題箋剝落　墨書　和漢嘉話宿直文。内題（序題）宿直譚。（本文題・尾題）和漢嘉話宿直譚（振仮名付）。半紙本。五巻五冊。三宅匡敬編。速水春暁斎画。文化五年刊。
書肆　（京都）　西山屋岩吉　野田藤八。（大阪）　尼屋与兵衛。

25　甲賀三郎窟物語　（こうがのさぶろういわやものがたり）
内題（目録題のみ）甲賀三郎巌窟物語（いはやものがたり）。（他は同）。半紙本。五巻五冊。手塚兎月作。歌川豊秀画。文化五年刊。
書肆　（京都）　蓍屋儀兵衛　近江屋仙助　白粉屋与兵衛　八幡屋金七。（大阪）　秋田屋太右衛門。

26　頼豪阿闍梨怪鼠傳　（らいごうあじゃりかいそでん）　後編
内題　頼豪阿闍梨怪鼠傳。怪鼠傳。半紙本。三巻四冊。（通巻巻之六～八ノ下まで。後編下冊が上下に分冊。巻八上・下に当る）
曲亭馬琴作。葛飾北斎画。文化五年刊。
書肆　（江戸）　僊鶴堂（鶴屋喜右衛門）。

27　小説奇談夢裡往事　（しょうせつきだん　ゆめのかよいじ）
内題　同。半紙本。四巻四冊。橘生堂（手塚）兎月作。文化五年刊。
書肆　（大阪）　塩屋長兵衛。（京都）　近江屋新兵衛。須原屋平左衛門。

28　母樹杜姥捨山月霄鄙物語　（ははきぎのもりおばすてやま　つきのよひなものがたり）
内題　月霄鄙物語（振仮名付）　半紙本。四巻五冊。（巻四を分冊。以上で本の巻とし、末の巻は文政十一年刊）
四方歌垣主人作。柳々居辰斎画。無刊記。文化五年刊（総目録による）。

29　松染情史秋七草　（しょうぜんじょうしあきのななくさ）
内題　同。半紙本。五巻六冊。（巻五を上下に分冊）　曲亭馬琴作。歌川豊広画。文化六年刊。
書肆　（大阪）　河内屋太助。

30　星月夜顕晦録　初編　（ほしづくよけんかいろく）
内題　同。半紙本。五巻五冊。高井蘭山作。蹄斎北馬画。文化六年刊。
書肆　（江戸）　柏屋半蔵　柏屋忠七　柏屋清兵衛。

31　柳の糸　（やなぎのいと）
内題　世三間堂棟材奇伝柳の糸。半紙本。五巻五冊。歟醐陳人（小枝繁）作。蹄斎北馬画。文化六年刊。
書肆　（江戸）　前川弥兵衛　伊勢屋忠右衛門。

32 報恩珍話とかえり花　（ほうおんちんわ　とかえりばな）
内題　報恩珍話十嘉栄利花。半紙本。五巻五冊。良々軒器水作。盆斎北岱画。文化六年刊。
書肆　（江戸）　竹川藤兵衛　伊勢屋治右衛門（咬菜堂）。

33 阿古義物語　（あこぎものがたり）　前帙
内題　流転数回阿古義物語。一名大礒十人きり。半紙本。四巻五冊（巻四を二分冊）。式亭三馬作。歌川豊国画。歌川国貞画。文化七年刊。
書肆　（江戸）　鶴屋喜右衛門。鶴屋金助。

34 阞阞妹背山　（おんようういもせやま）
内題　同。半紙本。六巻六冊。振鷺亭主人作。葛飾北斎画。文化七年刊。
書肆　（江戸）　西宮弥兵衛　石渡平八　石渡利助。

35 絵本催馬楽奇談　（えほんさいばらきだん）
内題　馬夫与作乳人重井催馬楽奇談。半紙本。五巻六冊。（巻五を上下に分冊）。小枝繁（歟醐閑士）作。蹄斎北馬画。文化八年刊。
書肆　（江戸）　西宮弥兵衛　伊勢屋忠右衛門　田辺屋古兵衛。

36 青砥藤綱摸稜案　前集　（あおとふじつなもりょうあん）
内題　同。半紙本。五巻五冊。曲亭馬琴作。葛飾北斎画。文化八年刊。
書肆　（江戸）　平林堂。

37 復讐奇談信夫摺在原草紙　（ふくしゅうきだん　しのぶずりありわらぞうし）
内題　同（振仮名付）。（序題）在原草帋。半紙本。六巻六冊（序巻及び巻一～巻五）。中川昌房作。一峯斎馬円画。無刊記。文化九年刊。（総目録による）
▽別名　小野小町業平草紙。

38 占夢南柯後記　前帙　（ゆめあわせなんかこうき）
内題　三七全傳第二編占夢南柯後記。半紙本。四巻六冊。曲亭馬琴作。葛飾北斎画。文化九年刊。
書肆　（江戸）　松本平介　榎本摠右衛門　榎本平吉。

39 桜木物語　（さくらぎものがたり）
内題　同。半紙本。五巻五冊。東漁（東邨子魚）作。石田玉山画。文化四年序　（文化九年刊。総目録による）。
書肆　（江戸）　書肆堂。

40 逢州執着譚　（おうしゅうしゅうぢゃくものがたり）
内題　浅間嶽面影草紙後帙（のちのまき）。逢州執着譚。題箋（巻四）執着譚琴巻　（巻五）執着譚　箜篌巻。半紙本。五巻五冊。柳亭種彦作。蘭斎北嵩画。文化九年刊。
書肆　（江戸）　山青堂。

41 復讐雙三弦　（かたきうちにちょうじゃみせん）
内題　復讐雙三絃（振仮名付）。巻一見返しに、繡像綺譚雙三弦。
半紙本。三巻五冊。（巻之中・巻之下がそれぞれ二分冊）。
蓬洲主人（神屋蓬洲）作・画。文化九年刊。
書肆　（江戸）　文刻堂。遊文堂　宝山堂　与寿堂。

42 松王物語　（まつおうものがたり）
内題　経島履歴松王物語。巻三に残る題箋も同上。半紙本。六巻六冊。
小枝繁作。葛飾北斎画。文化九年刊。
書肆　（大阪）　河内屋嘉七。（江戸）　角丸屋甚助
▽巻六の本文題「経島履歴まつわうものかたり松王物語　附録」とある。

43 絵本奇縁傳　（えほんきえんでん）
内題　同。半紙本。十巻十冊。速水春暁斎作・画。文化十年刊
書肆　（京都）　丸屋善七　八幡屋金七　西村吉兵衛　金吹屋市兵衛　今津屋重兵衛　安田屋吉兵衛。（大阪）　松本屋新助　石川屋和助　河内屋徳兵衛　藤屋徳兵衛　播磨屋重良兵衛　平野屋武右衛門　和泉屋儀兵衛　河内屋嘉助。

44 倭韓乃染分（伊達模様）　（だてもようわかんのそめわけ）
内題　同。（振仮名付）。半紙本。五巻五冊。五島清道作。一峯斎馬円画。文化十年刊。
書肆　（江戸）　四庫堂。
▽巻一表紙見返しに「一名　菊一文字」とあり。

45 花標因縁車　（みちしるべいんねんぐるま）
内題　同（振仮名付）。見返し題　骨董新話花標因縁車。半紙本。五巻五冊。万寿亭正二作。勝川春亭画。文化十一年刊。
書肆　（江戸）　文刻堂　宝山堂。

46 駿河舞全傳（キノニ）　（きのにぜんでん　するがまい）
内題　同。序題のみ　紀野尓全傳駿河舞。半紙本。六巻六冊。浜松歌国作。一峯斎馬円画。文化十一年刊。
書肆　（京都）　吉野屋仁兵衛　丸屋善七。（江戸）　鶴屋金助　松本屋新助。（大阪）　河内屋徳兵衛　海部屋九兵衛　播磨屋十良兵衛　河内屋嘉助。

47 河内毛綿団七嶋　（かわちもめんだんしちじま）
内題　同。序題のみ　河内木綿団七島。扉題　団七縞。半紙本。五巻五冊。栗杖亭鬼卵作。一峯斎馬円画。文化十一年刊。
書肆　（京都）　伏見屋半三郎　吉野屋仁兵衛。（江戸）　鶴屋金助。（大阪）　秋田屋太右衛門　河内屋嘉助。

48 小栗外傳（寒燈夜話）　（かんとうやわ　おぐりがいでん）
内題　同（振仮名付）　半紙本。十八冊（前編三巻七冊、二編一巻五冊、三編一巻及び附録六冊。計五巻十七冊及び附録一冊）。
絳山歗醪翁（小枝繁）作。葛飾北斎画。文化十二年刊。
書肆　（大阪）　河内屋八兵衛　播磨屋十郎兵衛　河内屋太助
（江戸）　角丸屋菊助

49　菖蒲草檐五月雨　（あやめぐさのきのさみだれ）
内題　同。半紙本。五巻五冊（巻之上・中・下。後篇巻之上・下）昇亭岐山作。歌川国芳画。文化十二年刊。
書肆　（大阪）　塩屋長兵衛　若林清兵衛。（江戸）　丸屋文右衛門　加賀屋源助。

50　売油郎　（あぶらうり）
題箋　ながはなし　売油郎。内題　同。半紙本。五巻五冊。芝屋芝叟作。春川芦広画。文化十三年刊。
書肆　（京都）　近江屋治助。（江戸）　鶴屋金助　秋田屋太右衛門。（大阪）　布屋忠三郎　河内屋徳兵衛　播磨屋重郎兵衛。

51　槍権三かさねかたひら　（やりのごんざかさねかたびら）
内題　槍権三累袴。半紙本。六巻六冊。五実軒奈々美津作。浜松歌国補。一峯斎馬円・狂画亭芦洲画。文化十三年刊。
書肆　（江戸）　鶴屋金助。（京都）　伏見屋半三郎　吉田屋新兵衛。（大阪）　河内屋太助　河内屋嘉七。

52　誰（梅か枝外傳）が袖物語　（うめがえがいでん　たがそでものがたり）
内題　同。半紙本。六巻六冊。桂中楼（福智）白瑛作。画。文化十四年刊。
書肆　（京都）　近江屋治助　吉田新兵衛。（大阪）　塩屋長兵衛。

53　夕霧書替文章　（ゆうぎりかきかえぶんしょう）
内題　同（振仮名付）。半紙本。五巻五冊。栗杖亭鬼卵作。東南西北雲画。文政元年刊。
書肆　（京都）　吉野屋仁兵衛。（江戸）　前川六左衛門。（大阪）　丹波屋栄蔵　河内屋儀助　河内屋嘉助。

54　謡曲春栄物語　（ようきょくしゅんえいものがたり）
内題　同。半紙本。五巻五冊。栗杖亭鬼卵作。文化十五年刊。
書肆　（江戸）　鶴屋金助。（京都）　伏見屋半三郎。（大阪）　河内屋嘉七。

55　幸（復讐奇談）物語　（ふくしゅうきだん　さちものがたり）
内題　同（振仮名付）。半紙本。六巻六冊。栗杖亭鬼卵作。葛飾北明画。文化十五年刊。
書肆　（京都）　丸屋善兵衛。（大阪）　秋田屋太右衛門。

56　今昔二枚絵草紙　（いまはむかしにまいえぞうし）
内題　同。半紙本。六巻六冊。浜松氏助作。浅山芦国画。文政二年刊。
書肆　（京都）　吉野屋仁兵衛。（大阪）　河内屋嘉七。

57　忠孝二見浦（復讐）　（かたきうち　ちゅうこうふたみがうら）後篇
内題　同（振仮名付）。題箋（巻二・五のみ）角書（敵討）半紙本。五巻五冊。無刊記。文政十三年序。（天保二年刊。総目録による）

南里亭其楽作。柳斎重春画（総目録による）

58　忠勇阿佐倉日記　（ちゅうゆうあさくらにっき）　初編

内題　同。半紙本。五巻五冊。松亭金水作。玉蘭斎貞秀画。嘉永五年刊。

書肆　（大阪）　河内屋源七郎　河内屋茂兵衛　丁字屋平兵衛。

（江戸）　山城屋佐兵衛　中屋徳兵衛　大和屋喜兵衛。

以上五十八点三百十三冊が、現在までに整理出来た全冊揃いの読本書目である。この外のものは欠巻を持つものであるが、追々整理が進むにつれて残巻が出現して完備する可能性もあるので、今はその書目を挙げることは差し控えて置きたい。

右には国書総目録に見えない書名もあるが、先述のように題笈がなくなって適当に墨書した題名もあり、内題からだけでは検索し難い場合、別題名で普及している場合もありそうである。類似の題のものや、作品の内容の比較から、同一のものがあるかないかを調査した上でないと、軽々しい指摘も出来ない気がする。同目録に所在が一、二点しか挙げられていないものが多い事も、一般的に言って稀覯のものが多いという事が出来る程度であろう。逆に言えば、著名な作品、人気作品ほど、この貸本屋廃業時には既に紛失したものが多く、汚損、欠巻による廃棄も多かったことが窺われるのである。

それよりも山間の小城下町一個所からこれだけの量のものが出現したことの方に私は興味を感ずる。これらの作品を熱愛し、争って読み耽った津和野の人士、その熱い想いがここに凝結しているような気がするのである。